

令和4年度第1回東北森林管理局事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和4年7月27日(水) 10時00分～12時10分

2 開催場所 東北森林管理局 4階第3会議室

3 出席者

(1)事業評価技術検討会

会長 高田 克彦

委員 山本 信次

委員 菊池 俊一

委員 山中 高史

(2)当局出席者(検討委員会委員等)

森林整備部長

計画保全部長

計画課長

治山課長

森林整備課長

資源活用課長

森林整備課課長補佐(説明員)

企画調整課監査官(事務局)

企画調整課監査係長(〃)

4 評価の対象

完了後の評価(森林環境保全整備事業)

- ・北上川中流森林計画区(岩手南部森林管理署、岩手南部森林管理署遠野支署)
- ・米代川森林計画区(米代東部森林管理署、米代東部森林管理署上小阿仁支署、米代西部森林管理署)
- ・庄内森林計画区(庄内森林管理署)

5 事業評価技術検討会の意見

・完了後の評価(森林環境保全整備事業)「本事業の実施により、水源涵養等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られ、地域の林業・木材産業の振興にも寄与しており、事業の効果が発揮されていると認められる。今後も、地域特性や現地の状況、社会情勢及び事業の評価を踏まえ、引き続き森林整備や路網の維持管理を適切に実施するとともに、事業の実施を通して地域の要望に応え、貢献していくことが望ましい。」

6 質疑応答等

委員：岩手県からの要望の中で国有林林道等の路網について記載されている。今回の評価に直接関係しないかもしれないが、国有林林道等については、単に民国連携の森林整備に係る木材の搬出だけではなく、緊急避難路として利用されるなど、地域にとっては重要なインフラになっている。昨今は大雨による災害も多く発生しているため、地域の要望を汲んでいただき、既設の林道等については、積極的に維持・修繕に取り組んでいただきたい。

委員：今回の評価については大半の地区でB/Cが3以上となっているため、国有林野事業が公益性の高い事業だということが確認できた。今回の評価対象事業は5年前の事業であるため、当時はまだ松くい虫の被害が多くなかったが、現在は遠野・花巻地域の被害が非常に拡大している。特に遠野においては、アカマツが人工林の21%を占めているということなので、何らかの対処を考えるべきだと思われる。被害を受けたアカマツの人工林については、ただ枯れるのを待つのではなく、現在はバイオマス燃料の価格も高騰しているため、コストをかけずに搬出して、他の樹種に転換することも検討していただきたい。

委員：事業費の単価が上がることで当初計画と評価時の事業量に差異が生じることはやむを得ないが、優先順位を付けながら作業効率を工夫するなどして、実行率を上げるよう取り組んでいただきたい。

委員：国有林の海岸林については海岸の前線部にあり、その保全・整備に大変御努力されているところである。海岸林の役割、機能は地域の方の実生活にも密接に関わってくるものであり、その生活を守る意味でも非常に重要な事業と考えている。今後も引き続き海岸林の保全・整備に努めていただきたい。

委員：東北森林管理局では、昨年から高品質ブランド材の供給を行っており、名古屋で良い価格になったスギ丸太材もあったと聞いている。そういった高品質材を伐採・供給することが結果として森林環境を保全することにも繋がるため、必要に応じて適正な計画の基に取り組んでいただきたい。